

2023年度の生乳及び牛乳乳製品の 需給見通しと課題について

2023年5月26日



一般社団法人 **Jミルク**
Japan Dairy Association (J-milk)

本見通しの趣旨

本見通しは、ARIMA モデル（短期予測モデル）から得られた推計値ならびに関係者からのヒアリング等に基づき算出したものであり、酪農乳業界としての需給に係る課題を抽出し、その課題対応の取り組みや検討の協議に資することを目的としている。

※業界としての今後の需要拡大に係る取り組み等、現時点で推計したり、成果を見通したりすることが困難な要素については加味していない。

本見通しの前提

1. 生乳生産予測（P 3～4 の説明）

- (1) 北海道及び都府県の予測値は、2023 年 3 月までの生乳生産量データに基づき、累積気温や乳牛頭数（搾乳牛頭数・妊娠頭数）等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。なお、2023 年度の気温は、「猛暑」で設定。
- (2) 要因変数として採用している搾乳牛頭数は、家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節当月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について、前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求めて推計。妊娠頭数は、授精頭数及び累積気温等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルにより推計（AR による推計）。
- (3) 酪農経営改善緊急支援事業（経産牛早期リタイア事業）の効果については、考慮していない（2023 年 3 月までは実績として反映）。なお、北海道は北海道農協酪農畜産対策本部委員会における生産目標数量を基本に予測した。

2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数（P 5～6 の説明）

家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求め推計。出生頭数（実績）は家畜改良センターの乳用雌牛頭数（速報値）をまとめた。

3. 牛乳等生産量予測（P 7～9 の説明）

各々の予測値は、2023 年 3 月までの生産量データに基づき、人口、価格、累積気温、平日日数等の要因変数、ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。さらに、直近の小売 P O S データで確認された変化動向等も考慮した。なお、2023 年度の気温は、「猛暑」で設定。

4. 用途別処理量予測（P 10～12 の説明）

- (1) 生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出。
- (2) 自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定。
- (3) 飲用等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、最近の生乳使用係数を乗じ算出。

5. 脱脂粉乳・バター需給予測（P 13～14 の説明）

- (1) 脱脂粉乳・バターの生産量は、脱脂粉乳・バター等向処理予測数量に、直近の動向等を反映した製造係数（これらの製品単位あたりに実際に使用された生乳数量）を乗じて算出。
- (2) 脱脂粉乳・バターの推定出回り量は、2023 年 3 月までの推定出回り量データに基づき、発酵乳や代替乳製品の動向等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。
- (3) 脱脂粉乳・バターの在庫月数は、今年度予測の 1 ヶ月平均出回り量を基に算出。

6. 都府県生乳需給予測（P15の説明）

- (1) 「移入必要量（道外移出量）」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- (2) 「脱脂粉乳・バター等向処理量」は、「A-B-C」+「移入量」-「移出量」で算出。過去5年間の最低数量や直近の需給状況並びに北海道における脱脂粉乳・バター等仕向の処理能力を加味して算出。

※生乳取引価格引き上げに伴う牛乳・乳製品価格改定の影響について

(1) 乳製品向生乳取引価格引き上げに伴う製品価格改定の影響について

本見通しでは、2023年4月からの乳製品向生乳取引価格引き上げによる需要の減少について、業務用を中心とした乳製品の価格と需要の相関を企業物価指数と牛乳乳製品統計などを用いて検討し、ARIMAモデルで予測した。

企業物価指数の飲食料全体に対するチーズ、生クリーム、脱脂粉乳、バターそれぞれの相対価格指数を算出し、価格が10%改定したときの需要量を予測。よって、需要が減少すると予測しているカテゴリは、用途別処理量のうちチーズ向、生クリーム等向（P10～12）、脱脂粉乳・バター需給のうち推定出回り量（P13～14）とした。

※企業物価指数

日本銀行公表。企業間で取引される財を対象としている。品質を固定した商品（財）の価格を継続的に調査し、現時点の価格を、基準時点（2020年）の価格を100として指数化したもの。企業間で取り引きされる商品の価格を指数化した物価指数のこと。

(2) 飲用等向・はっ酵乳向生乳取引価格引き上げに伴う製品価格改定の影響について

本見通しでは、2023年8月からの飲用等向・はっ酵乳向生乳取引価格引き上げによる需要の減少について、牛乳・乳製品の価格と需要の相関を消費者物価指数または販売記録データ（POSデータ）と牛乳乳製品統計などを用いて検討し、ARIMAモデルで予測した。

消費者物価指数の飲料全体（はっ酵乳は乳製品全体）に対する牛乳等生産量の各カテゴリ（P7）の相対価格指数を算出し、価格が10%改定（加工乳、はっ酵乳は5%改定）したときの需要量を予測。よって、需要が減少すると予測しているカテゴリは、牛乳等生産量予測のうち牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳とした。

なお、乳製品を使用して製造している加工乳、はっ酵乳は4月にも製品価格が改定されているため、これら品目については4月と8月に需要減少の影響を反映している。

※消費者物価指数

総務省統計局公表。消費者が購入するモノやサービスなどの物価の動きを把握するための統計指標。現時点の価格を、基準時点（2020年）の価格を100として指数化したもの。全国の世帯が購入する家計に係る財及びサービスの価格等を総合した物価の変動を時系列的に測定する。

※参考 価格改定率

	価格改定率（4月～）	価格改定率（8月～）
牛乳	—	+10%
加工乳	+5%	+5%
成分調整牛乳	—	+10%
乳飲料	—	+10%
はっ酵乳	+5%	+5%
チーズ向	+10%	—
生クリーム等向	+10%	—
脱脂粉乳（出回り）	+10%	—
バター（出回り）	+10%	—

1. 地域別生乳生産量の動向

表1-1：2022年度の地域別生乳生産量（網掛け：実績）

（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	657	102.0%	364	103.5%	293	100.3%
5月	679	101.2%	379	102.5%	299	99.7%
6月	643	100.4%	364	100.8%	279	99.7%
7月	645	101.0%	372	101.5%	274	100.3%
8月	627	99.8%	364	100.9%	263	98.2%
9月	606	98.8%	349	99.1%	257	98.5%
10月	622	98.6%	353	98.5%	269	98.8%
11月	597	97.2%	337	97.0%	260	97.5%
12月	621	96.2%	350	95.5%	272	97.2%
1月	624	96.0%	350	95.3%	275	96.9%
2月	570	95.5%	318	94.7%	252	96.5%
3月	641	95.3%	355	94.5%	286	96.1%
第1四半期	1,978	101.2%	1,107	102.3%	871	99.9%
第2四半期	1,879	99.9%	1,085	100.5%	794	99.0%
第3四半期	1,840	97.3%	1,039	97.0%	801	97.8%
第4四半期	1,836	95.6%	1,023	94.8%	813	96.5%
上期	3,857	100.6%	2,192	101.4%	1,665	99.5%
下期	3,676	96.4%	2,062	95.9%	1,614	97.2%
年度計	7,533	98.5%	4,254	98.7%	3,279	98.3%

表1-2：2023年度の地域別生乳生産量（見通し）

（千トン）

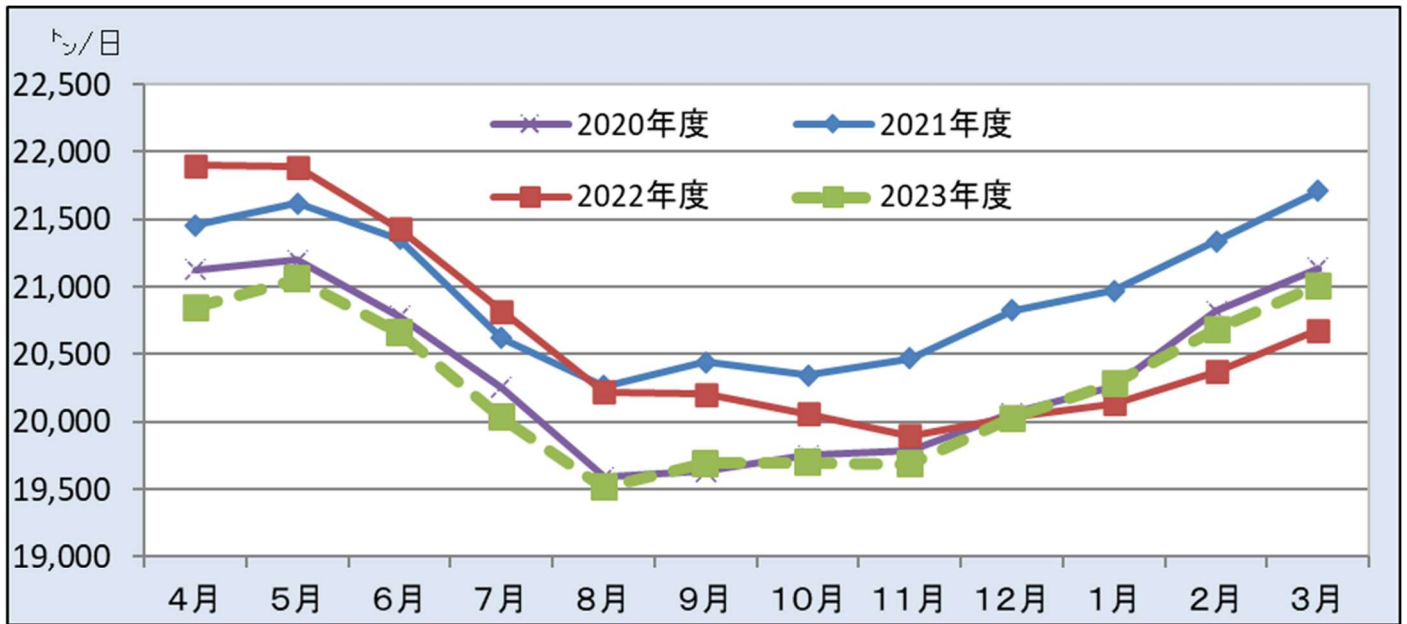
	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	626	95.2%	347	95.5%	278	94.9%
5月	653	96.2%	365	96.3%	287	96.1%
6月	620	96.4%	353	96.9%	267	95.7%
7月	621	96.2%	361	97.1%	260	95.0%
8月	605	96.5%	354	97.3%	251	95.5%
9月	591	97.5%	344	98.6%	247	96.0%
10月	611	98.2%	352	99.6%	259	96.3%
11月	591	98.9%	338	100.5%	252	96.9%
12月	621	100.0%	355	101.5%	266	98.0%
1月	629	100.8%	358	102.3%	271	98.8%
2月	600	105.2%	340	106.8%	260	103.1%
3月	652	101.6%	366	103.1%	285	99.7%
第1四半期	1,898	96.0%	1,065	96.2%	833	95.6%
第2四半期	1,817	96.7%	1,059	97.6%	758	95.5%
第3四半期	1,822	99.0%	1,045	100.5%	777	97.1%
第4四半期	1,880	102.4%	1,064	104.0%	817	100.5%
上期	3,715	96.3%	2,125	96.9%	1,591	95.5%
下期	3,702	100.7%	2,108	102.3%	1,594	98.8%
年度計	7,418	98.5%	4,233	99.5%	3,185	97.1%

【2023年度生乳生産の見通し】北海道4,233千トン・同99.5%、都府県3,185千トン・同97.1%、全国7,418千トン・前年比98.5%の見通しである。北海道、都府県ともに前年を下回り、2年連続の減産となる見通し。

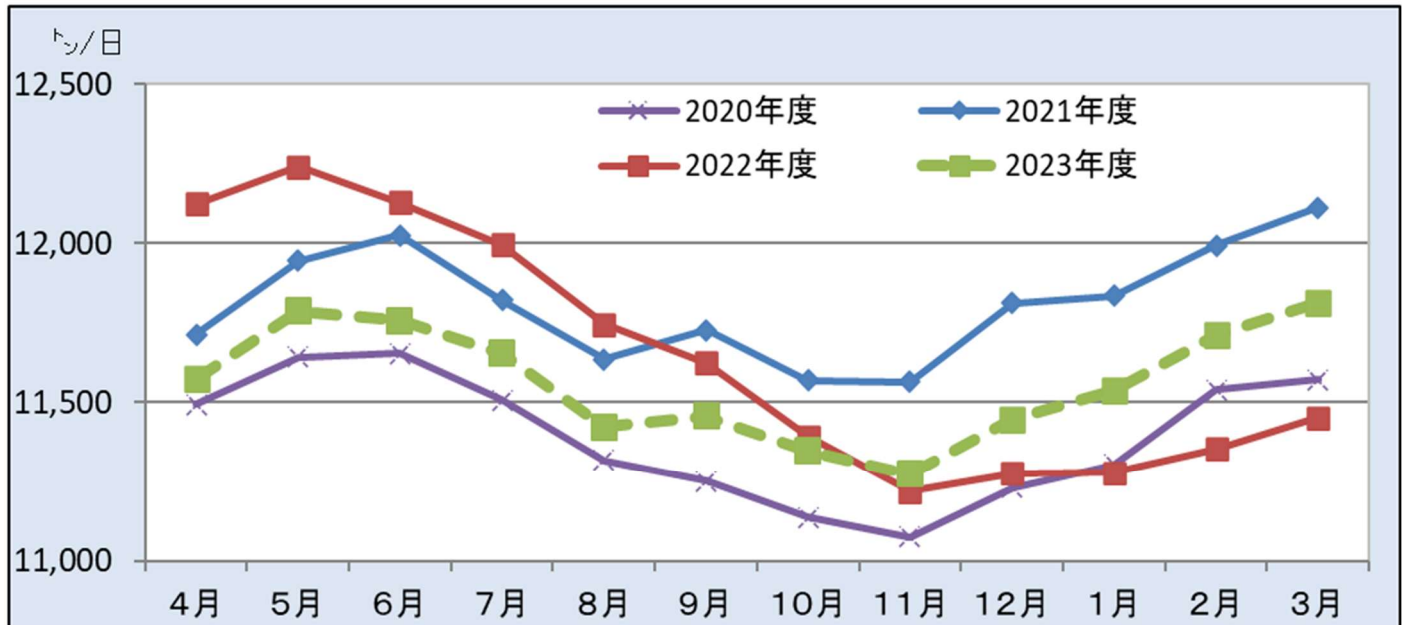
※酪農経営改善緊急支援事業（経産牛早期リタイア事業）の効果については、考慮していない。なお、北海道は北海道農協酪農畜産対策本部委員会における生産目標数量を基本に予測した。

【前回見通し（1/27公表）】北海道4,230千トン・同99.0%、都府県3,239千トン・同98.4%、全国7,470千トン・前年比98.7%。

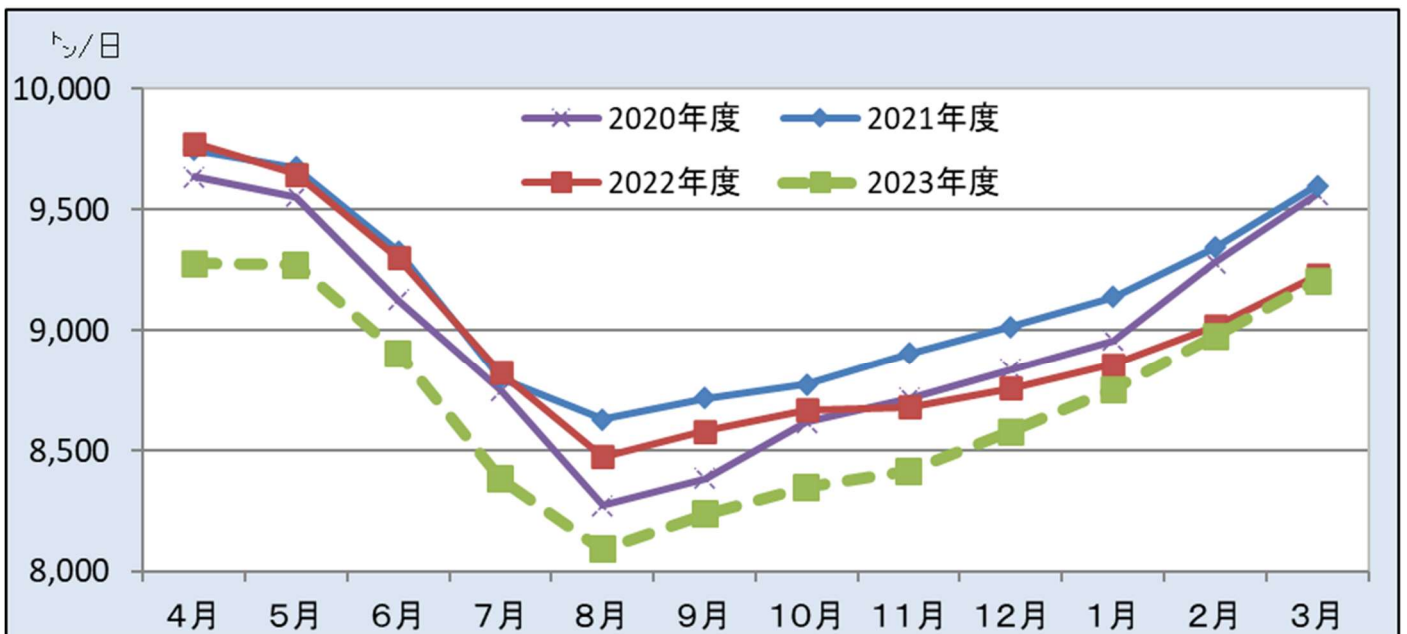
グラフ1-1：全国の生産量（日均量）



グラフ1-2：北海道の生産量（日均量）

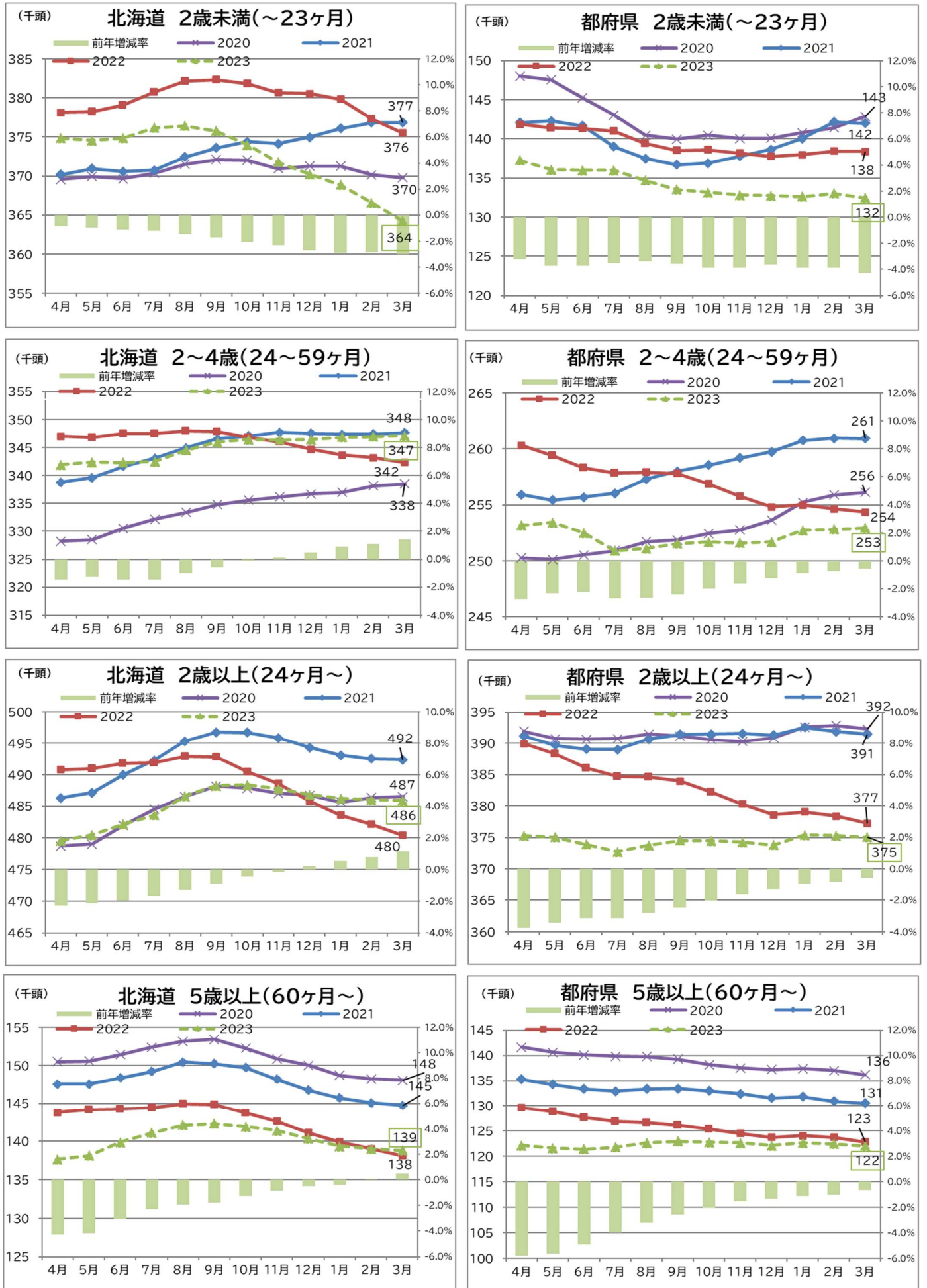


グラフ1-3：都府県の生産量（日均量）

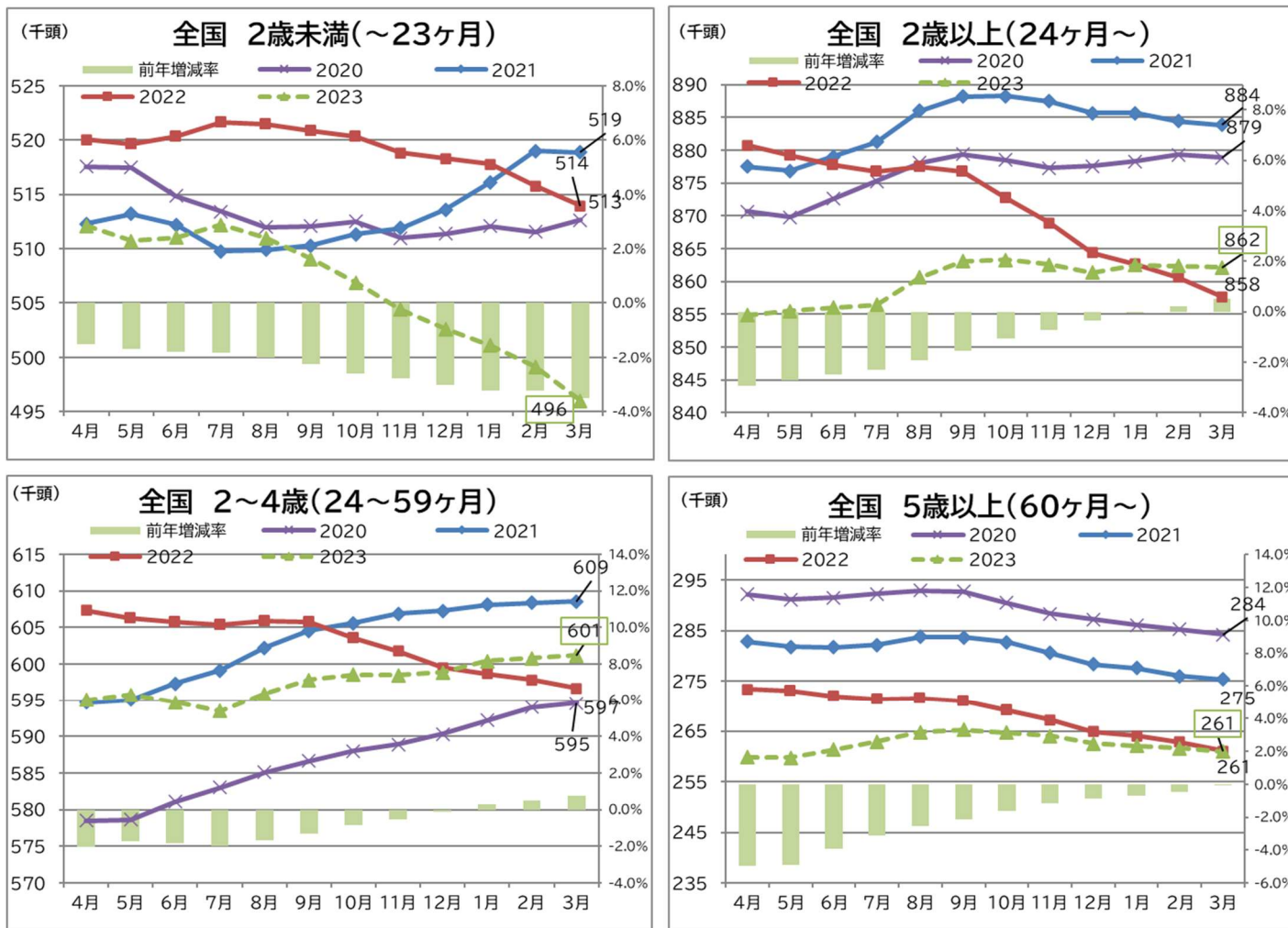


2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数

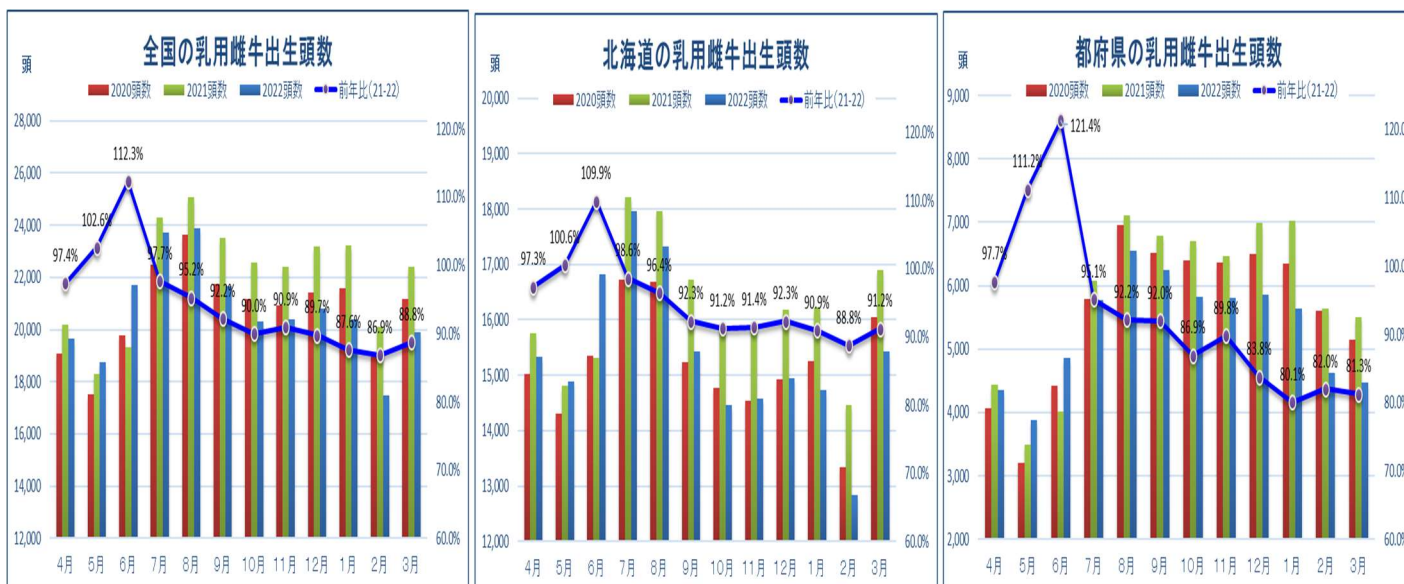
(1) グラフ2-1：北海道と都府県の月齢別乳用雌牛頭数（2023年5月以降見通し）



(2) グラフ2-2：全国の月齢別乳用雌牛頭数（2023年5月以降見通し）



(3) 表2-3：乳用雌牛出生頭数（2023年3月まで実績）



【2023年度の乳用雌牛頭数について】

- ・2歳未満頭数は北海道で約12千頭、都府県で約6千頭減少する見通し。なお、2022年度の乳用雌牛累計出生頭数は、北海道は前年比95.1%、都府県は同90.9%、全国では94.0%と前年よりも減少した。
- ・搾乳牛となる2歳以上頭数は都府県では約2千頭減少、北海道は約6千頭増加する見通し。北海道では12月以降2022年度を上回る予測となっている。
- ・5歳以上頭数については、北海道、都府県ともに2022年度同水準となる見通し。

3. 牛乳等生産量の動向

表3-1：2022年度の牛乳等生産量（網掛け：実績）

(千kl)

	牛乳類		牛乳						加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳					
			学乳		学乳以外															
	前年比		前年比	前年比	前年比	前年比	うち、業務用 前年比	うち、業務用以外 前年比	前年比		前年比		前年比		前年比					
4月	379	100.0%	261	100.5%	26	95.0%	235	101.2%	24	97.0%	211	101.7%	10	112.0%	21	97.2%	87	97.9%	82	90.8%
5月	398	98.8%	275	98.9%	35	100.5%	241	98.7%	25	101.5%	216	98.4%	10	110.7%	22	95.2%	90	98.0%	84	92.8%
6月	397	97.9%	275	97.7%	39	97.7%	236	97.8%	22	93.7%	214	98.2%	10	107.3%	22	95.8%	91	97.8%	83	93.2%
7月	397	98.8%	270	99.7%	22	95.7%	248	100.0%	22	89.1%	226	101.2%	10	102.2%	23	98.2%	94	96.2%	83	93.5%
8月	391	100.7%	261	100.8%	7	119.2%	255	100.4%	26	96.8%	229	100.8%	11	119.2%	22	96.1%	96	99.6%	82	95.1%
9月	402	99.6%	277	99.9%	34	102.7%	243	99.5%	25	94.9%	219	100.0%	11	111.6%	22	96.6%	92	98.3%	81	94.1%
10月	403	99.6%	281	100.0%	36	97.1%	245	100.4%	29	103.1%	216	100.1%	12	114.0%	21	97.2%	89	97.3%	81	93.5%
11月	376	99.7%	260	98.4%	35	98.8%	224	98.3%	27	101.1%	197	97.9%	13	114.8%	20	97.1%	84	102.6%	74	91.1%
12月	361	98.1%	248	97.0%	28	95.8%	220	97.1%	25	105.1%	195	96.2%	13	114.3%	19	94.6%	80	100.3%	72	93.4%
1月	363	97.1%	251	95.6%	29	107.1%	221	94.3%	23	97.6%	199	93.9%	12	119.3%	20	93.3%	80	100.0%	74	90.0%
2月	340	97.4%	238	96.5%	34	110.4%	203	94.5%	20	89.8%	183	95.1%	11	111.9%	18	90.9%	73	100.0%	70	90.0%
3月	370	97.6%	252	96.7%	23	98.7%	229	96.5%	25	94.1%	204	96.9%	12	109.5%	20	93.1%	86	100.0%	79	90.0%
第1四半期	1,175	98.9%	811	99.0%	100	97.9%	711	99.2%	71	97.4%	641	99.4%	31	110.0%	65	96.1%	268	97.9%	249	92.3%
第2四半期	1,189	99.7%	809	100.1%	63	101.6%	746	100.0%	72	93.7%	674	100.7%	31	110.8%	67	97.0%	282	98.0%	246	94.2%
第3四半期	1,140	99.2%	789	98.5%	99	97.3%	690	98.7%	82	103.0%	608	98.1%	38	114.3%	61	96.3%	253	100.0%	228	92.7%
第4四半期	1,073	97.4%	740	96.3%	86	106.0%	654	95.1%	68	93.9%	586	95.3%	35	113.5%	58	92.4%	240	100.0%	223	90.0%
上期	2,364	99.3%	1,620	99.6%	163	99.3%	1,458	99.6%	143	95.5%	1,315	100.1%	62	110.4%	132	96.5%	550	98.0%	495	93.2%
下期	2,213	98.3%	1,529	97.4%	185	101.2%	1,344	96.9%	150	98.7%	1,194	96.7%	73	114.0%	119	94.4%	493	100.0%	451	91.3%
年度計	4,577	98.8%	3,149	98.5%	348	100.3%	2,801	98.3%	293	97.1%	2,509	98.4%	135	112.3%	250	95.5%	1,043	98.9%	946	92.3%

※乳飲料・はっ酵乳は統計数値精査中であるため、上記数値は仮置き

表3-2：2023年度の牛乳等生産量（見通し）

(千kl)

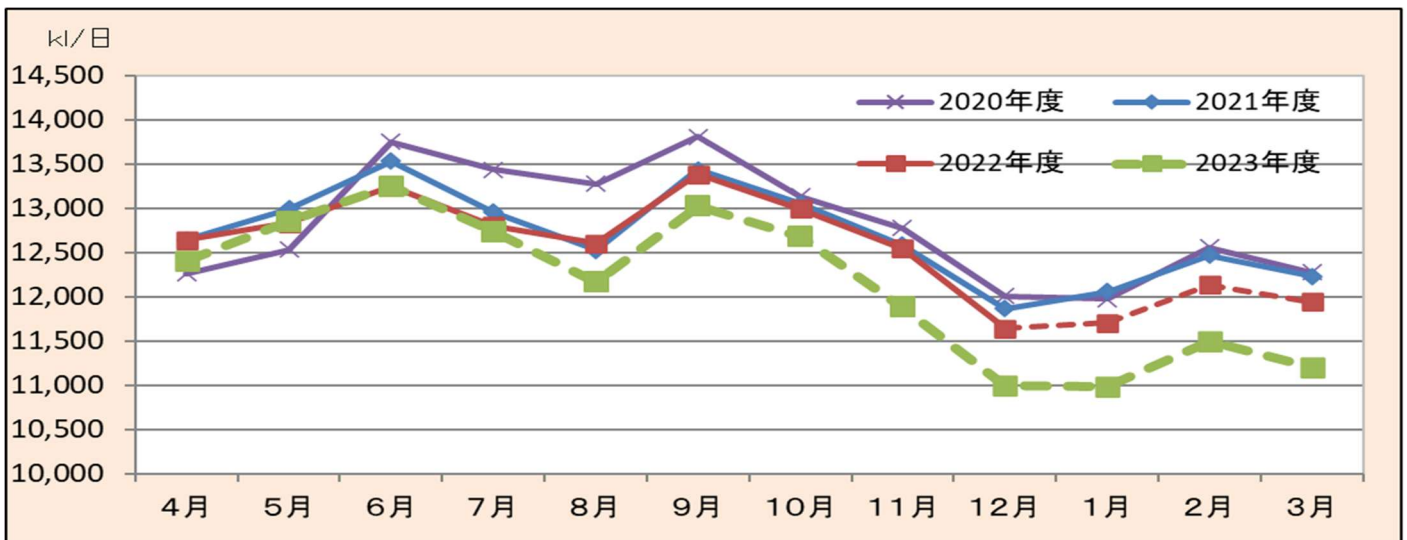
	牛乳類		牛乳						加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳					
			学乳		学乳以外															
	前年比		前年比	前年比	前年比	前年比	うち、業務用 前年比	うち、業務用以外 前年比	前年比		前年比		前年比		前年比					
4月	372	98.1%	252	96.7%	26	100.3%	226	96.2%	25	102.7%	201	95.5%	11	111.6%	20	96.0%	88	101.3%	80	97.6%
5月	398	100.1%	272	98.8%	36	103.2%	236	98.2%	24	97.9%	212	98.2%	12	111.0%	22	99.3%	93	103.1%	82	97.2%
6月	398	100.0%	272	99.0%	39	100.5%	233	98.7%	22	101.5%	211	98.4%	11	106.5%	22	100.6%	93	102.5%	80	96.2%
7月	395	99.5%	263	97.3%	23	102.6%	240	96.8%	22	101.8%	218	96.3%	11	110.0%	23	101.8%	98	104.1%	79	95.3%
8月	377	96.5%	247	94.6%	6	88.6%	241	94.7%	23	90.7%	218	95.2%	11	102.4%	22	98.7%	97	100.6%	75	90.8%
9月	391	97.3%	267	96.2%	33	98.4%	233	95.9%	24	96.6%	209	95.8%	11	103.2%	21	97.0%	92	100.2%	75	92.7%
10月	393	97.5%	270	96.0%	36	102.0%	233	95.2%	26	91.8%	207	95.6%	12	100.2%	20	94.1%	91	102.9%	75	92.6%
11月	357	94.7%	251	96.8%	35	100.1%	216	96.3%	27	99.4%	189	95.9%	12	92.0%	19	93.4%	75	88.9%	69	92.8%
12月	341	94.4%	240	96.7%	29	102.3%	211	96.0%	26	100.7%	186	95.3%	12	93.5%	18	90.8%	71	88.4%	66	91.4%
1月	341	93.9%	241	96.1%	29	98.8%	212	95.8%	23	100.5%	189	95.2%	11	90.3%	18	90.9%	71	88.2%	71	95.5%
2月	333	98.1%	237	99.9%	34	99.8%	203	99.9%	22	108.4%	181	99.0%	11	97.3%	17	95.9%	68	92.7%	71	100.6%
3月	347	93.7%	240	95.4%	22	95.7%	218	95.4%	25	98.3%	194	95.0%	11	93.7%	18	90.0%	77	89.7%	77	98.4%
第1四半期	1,168	99.4%	796	98.2%	101	101.4%	695	97.7%	71	100.6%	624	97.4%	34	109.7%	64	98.7%	275	102.3%	241	97.0%
第2四半期	1,163	97.8%	777	96.0%	62	98.8%	715	95.8%	69	96.1%	646	95.8%	33	105.1%	66	99.2%	286	101.7%	229	92.9%
第3四半期	1,090	95.6%	761	96.5%	100	101.4%	661	95.8%	79	97.1%	582	95.6%	36	95.1%	56	92.8%	237	93.6%	210	92.3%
第4四半期	1,021	95.2%	719	97.1%	85	98.4%	634	96.9%	69	102.0%	564	96.4%	33	93.6%	54	92.1%	216	90.1%	219	98.1%
上期	2,331	98.6%	1,573	97.1%	163	100.4%	1,410	96.7%	140	98.3%	1,270	96.6%	67	107.4%	130	99.0%	561	102.0%	470	95.0%
下期	2,111	95.4%	1,480	96.8%	185	100.0%	1,295	96.3%	149	99.4%	1,146	96.0%	69	94.4%	110	92.5%	453	91.9%	429	95.2%
年度計	4,442	97.1%	3,053	97.0%	348	100.2%	2,705	96.6%	289	98.9%	2,416	96.3%	135	100.4%	240	95.9%	1,014	97.2%	899	95.1%

【2023年度の牛乳等生産量の見通し】 「牛乳類」は4,442千kl・前年比97.1%。内訳として「牛乳」3,053kl・同97.0%、「加工乳」135千kl・同100.4%、「成分調整牛乳」240千kl・同95.9%、「乳飲料」1,014千kl・同97.2%。「はっ酵乳」は、899千kl・同95.1%と見込んだ。生乳取引価格引き上げとなる8月以降は、需要が大きく減少すると見通した。

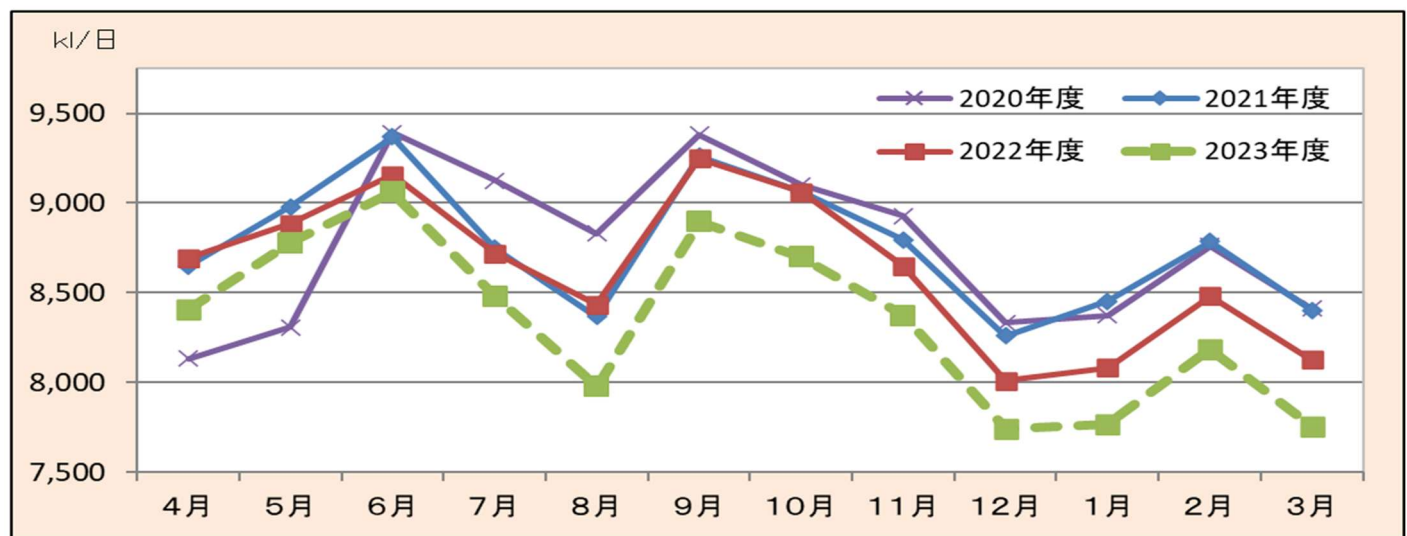
※過去の生乳取引価格引き上げと需要減少の相関を基に予測(前提条件等はP1-2を参照)。

【前回見通し】: 「牛乳類」4,520千kl・前年比98.8%。内訳として「牛乳」3,103千kl・同98.6%、「加工乳」133千kl・同100.7%、「成分調整牛乳」234千kl・同93.9%、「乳飲料」1,051千kl・同100.1%。「はっ酵乳」は、933千kl・同97.7%。

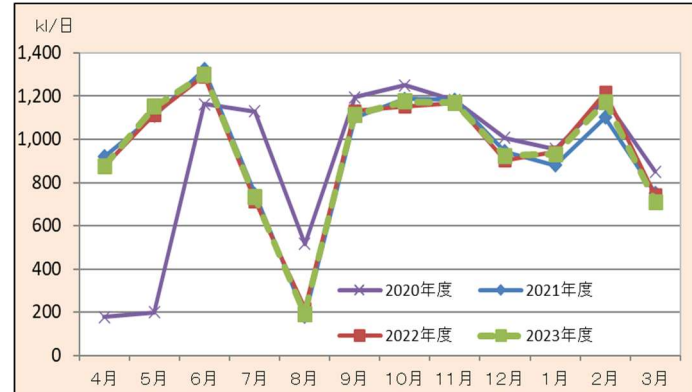
グラフ3-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



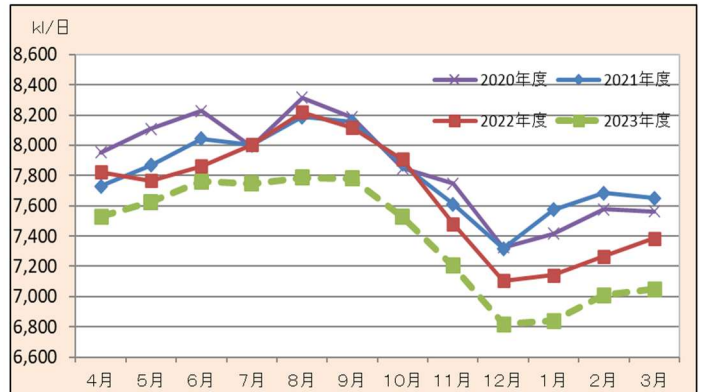
グラフ3-2：牛乳の生産量（日均量）



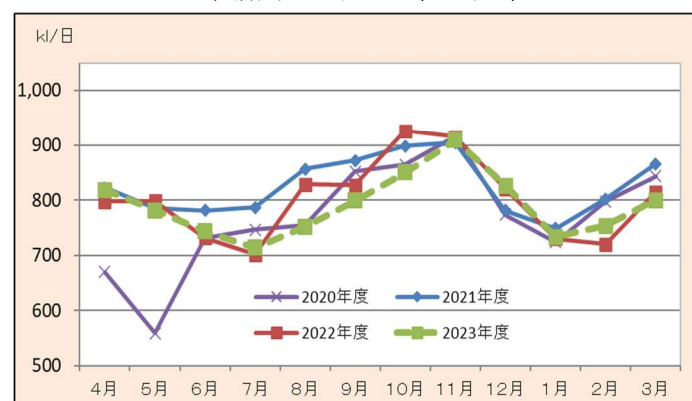
グラフ3-3：学乳の生産量（日均量）



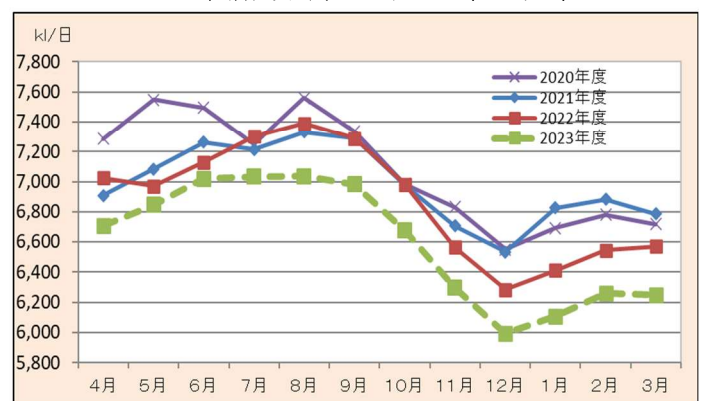
グラフ3-4：学乳以外の生産量（日均量）



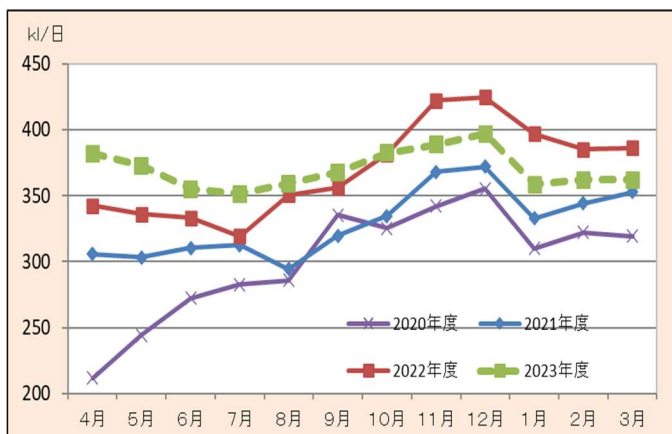
グラフ3-5：業務用の生産量（日均量）



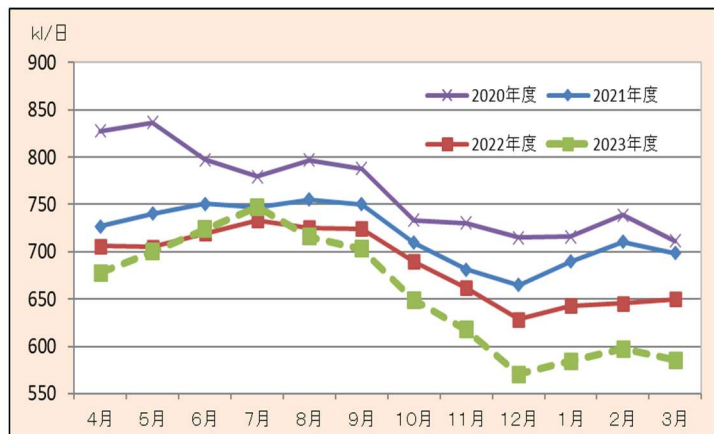
グラフ3-6：業務用以外の生産量（日均量）



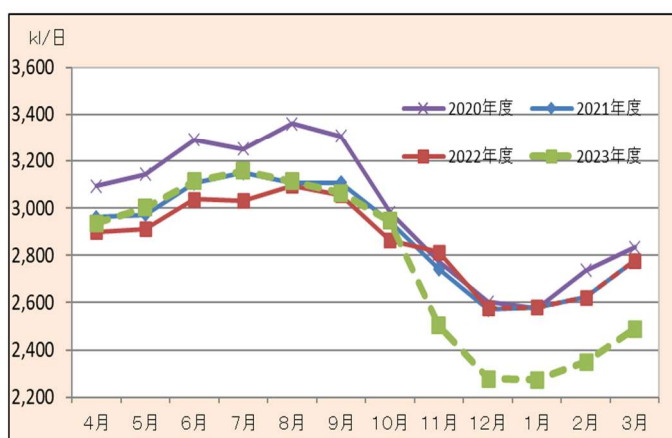
グラフ3-7：加工乳の生産量（日均量）



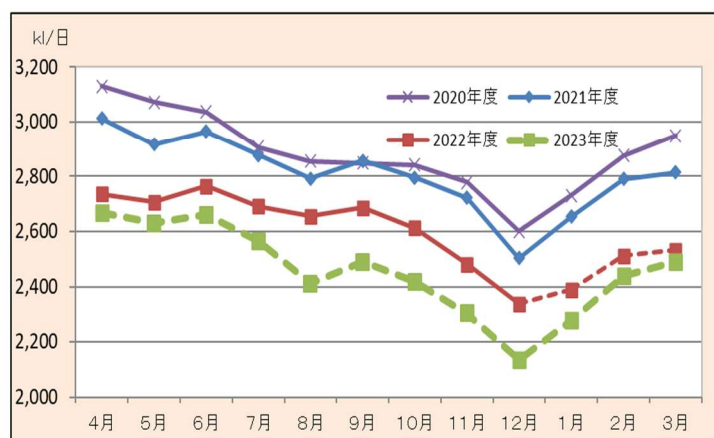
グラフ3-8：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ3-9：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ3-10：はっ酵乳の生産量（日均量）



4. 用途別処理量の動向

表4-1：2022年度の生乳供給量及び用途別処理量（網掛け：実績）

(千トン)

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 (認定ベース)		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
4月	657	102.0%	4	91.0%	653	102.1%	333	100.1%	320	104.3%	179	105.9%	38	98.4%	104	103.8%
5月	679	101.2%	4	91.6%	675	101.3%	350	98.9%	325	104.1%	180	105.2%	40	108.6%	105	100.7%
6月	643	100.4%	4	91.5%	639	100.4%	348	97.7%	291	103.8%	150	105.3%	38	105.4%	103	101.3%
7月	645	101.0%	4	89.0%	642	101.1%	350	101.4%	291	100.6%	145	100.6%	40	107.9%	107	98.1%
8月	627	99.8%	4	90.6%	623	99.8%	336	100.4%	288	99.2%	148	98.3%	38	105.3%	102	98.4%
9月	606	98.8%	4	93.6%	602	98.9%	349	99.9%	253	97.4%	117	94.8%	35	102.5%	101	99.0%
10月	622	98.6%	4	96.3%	618	98.6%	353	99.5%	265	97.4%	123	95.0%	35	97.5%	107	100.4%
11月	597	97.2%	4	93.7%	593	97.2%	325	98.8%	268	95.4%	126	91.7%	36	109.2%	107	95.9%
12月	621	96.2%	4	94.9%	617	96.2%	313	98.0%	304	94.4%	162	92.6%	39	100.8%	103	95.2%
1月	624	96.0%	4	91.6%	620	96.0%	319	96.0%	301	96.1%	165	94.2%	39	105.4%	98	96.0%
2月	570	95.5%	4	95.0%	567	95.5%	300	96.7%	267	94.1%	142	90.1%	33	98.4%	92	99.4%
3月	641	95.3%	4	103.1%	637	95.2%	321	96.8%	316	93.7%	171	89.4%	39	97.9%	107	99.7%
第1四半期	1,978	101.2%	11	91.4%	1,967	101.3%	1,031	98.9%	936	104.1%	508	105.5%	116	104.0%	312	101.9%
第2四半期	1,879	99.9%	11	91.0%	1,867	99.9%	1,035	100.6%	832	99.1%	410	98.0%	113	105.3%	309	98.5%
第3四半期	1,840	97.3%	12	95.0%	1,828	97.3%	991	98.8%	838	95.7%	411	93.0%	110	102.3%	316	97.1%
第4四半期	1,836	95.6%	12	96.4%	1,824	95.6%	940	96.5%	884	94.6%	477	91.3%	111	100.6%	296	98.3%
上期	3,857	100.6%	23	91.2%	3,834	100.6%	2,066	99.7%	1,768	101.7%	918	102.0%	229	104.7%	621	100.2%
下期	3,676	96.4%	23	95.7%	3,652	96.4%	1,931	97.6%	1,721	95.1%	888	92.1%	221	101.4%	612	97.7%
年度計	7,533	98.5%	46	93.4%	7,486	98.5%	3,997	98.7%	3,489	98.4%	1,806	96.9%	450	103.0%	1,233	98.9%

表4-2：2023年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

(千トン)

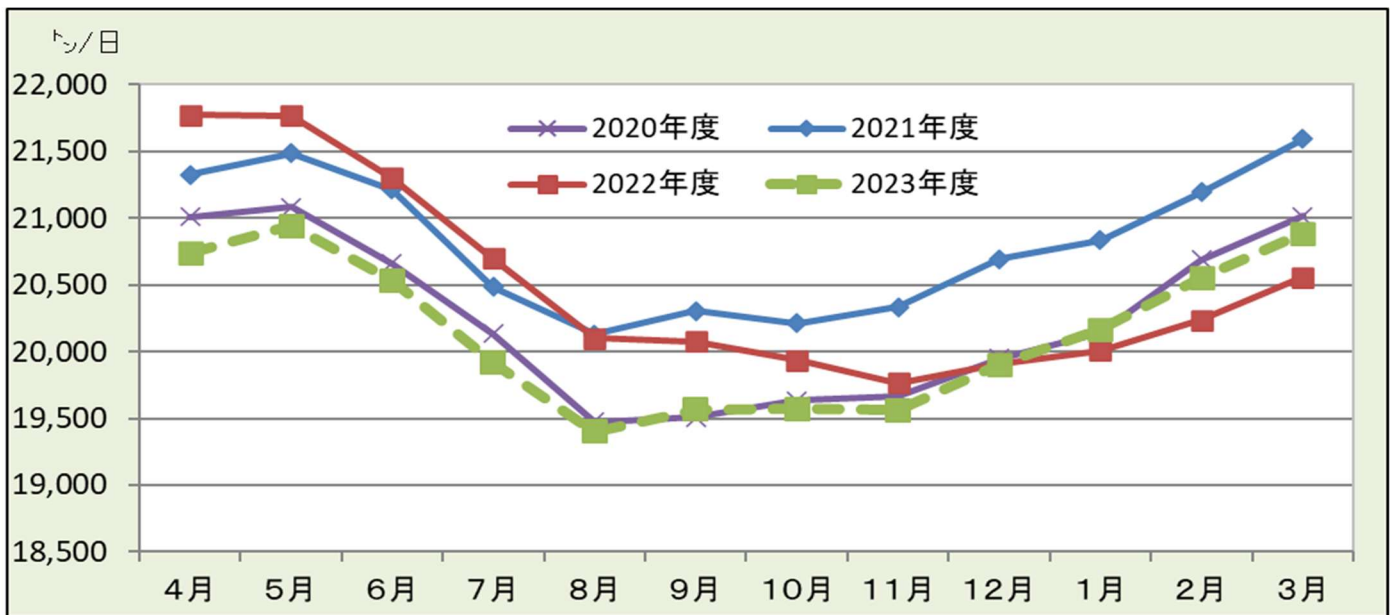
	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 (認定ベース)		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
4月	626	95.2%	4	95.3%	622	95.2%	323	97.0%	299	93.4%	159	88.9%	39	103.0%	101	97.6%
5月	653	96.2%	4	96.5%	649	96.2%	347	99.1%	302	93.1%	163	90.7%	39	98.4%	100	95.2%
6月	620	96.4%	4	96.7%	616	96.4%	346	99.2%	270	93.1%	134	89.5%	38	99.8%	98	95.8%
7月	621	96.2%	4	96.4%	617	96.2%	344	98.0%	274	94.1%	137	94.9%	37	91.9%	100	93.8%
8月	605	96.5%	4	96.5%	601	96.5%	319	95.1%	282	98.1%	150	101.6%	36	95.1%	96	94.1%
9月	591	97.5%	4	97.4%	587	97.5%	336	96.4%	251	99.0%	123	105.2%	33	92.9%	95	93.9%
10月	611	98.2%	4	98.2%	607	98.2%	339	96.2%	268	100.9%	134	108.5%	34	96.7%	100	93.5%
11月	591	98.9%	4	98.8%	587	98.9%	312	96.1%	275	102.4%	140	111.7%	33	92.2%	101	94.9%
12月	621	100.0%	4	99.6%	617	100.0%	300	95.7%	317	104.4%	183	112.8%	35	90.6%	99	96.4%
1月	629	100.8%	4	100.4%	625	100.8%	305	95.4%	321	106.5%	191	116.0%	36	94.4%	93	95.2%
2月	600	105.2%	4	104.8%	596	105.2%	298	99.4%	298	111.7%	178	125.0%	33	100.1%	87	95.3%
3月	652	101.6%	4	101.3%	648	101.6%	305	95.0%	343	108.4%	204	119.4%	37	95.4%	102	95.4%
第1四半期	1,898	96.0%	11	96.2%	1,887	95.9%	1,015	98.5%	872	93.2%	456	89.7%	116	100.4%	300	96.2%
第2四半期	1,817	96.7%	11	96.8%	1,806	96.7%	999	96.5%	807	97.0%	411	100.3%	105	93.3%	291	93.9%
第3四半期	1,822	99.0%	12	98.9%	1,810	99.0%	951	96.0%	860	102.6%	457	111.2%	103	93.1%	300	94.9%
第4四半期	1,880	102.4%	12	102.1%	1,869	102.4%	908	96.5%	961	108.7%	572	119.9%	107	96.4%	282	95.3%
上期	3,715	96.3%	22	96.5%	3,693	96.3%	2,014	97.5%	1,679	95.0%	867	94.4%	222	96.9%	590	95.1%
下期	3,702	100.7%	23	100.5%	3,679	100.7%	1,858	96.2%	1,821	105.8%	1,029	115.9%	209	94.8%	582	95.1%
年度計	7,418	98.5%	45	98.5%	7,372	98.5%	3,873	96.9%	3,499	100.3%	1,896	105.0%	431	95.8%	1,173	95.1%

【2023年度の用途別処理量の見通し】「生乳供給量」7,372千トン・前年比98.5%、「飲用等向処理量」3,873千トン・同96.9%、差し引きの「乳製品向処理量」3,499千トン・同100.3%と見込んだ。乳製品向のうち、「チーズ向」431千トン・同95.8%、「生クリーム等向」は1,173千トン・同95.1%、「脱脂粉乳・バター等向」は、1,896千トン・同105.0%と前年を上回る見通し。

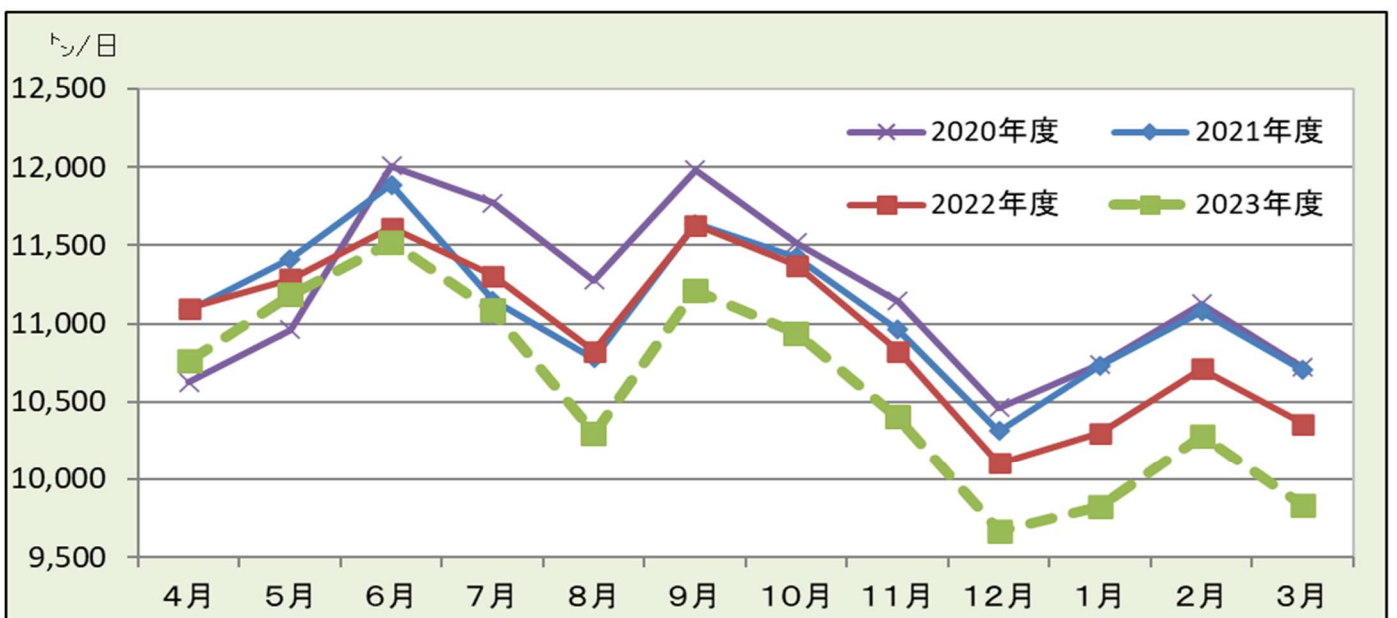
※チーズ向、生クリーム等向は、過去の生乳取引価格引き上げと需要減少の相関を基に予測(前提条件等はP1-2を参照)。

【前回見通し】：「生乳供給量」7,424千トン・前年比98.7%、「飲用等向処理量」3,923千トン・同98.4%、「乳製品向処理量」3,501千トン・同99.1%(うち、「チーズ向」434千トン・同96.9%、「生クリーム等向」1,200千トン・同97.1%、「脱脂粉乳・バター等向」1,867千トン・同101.0%)

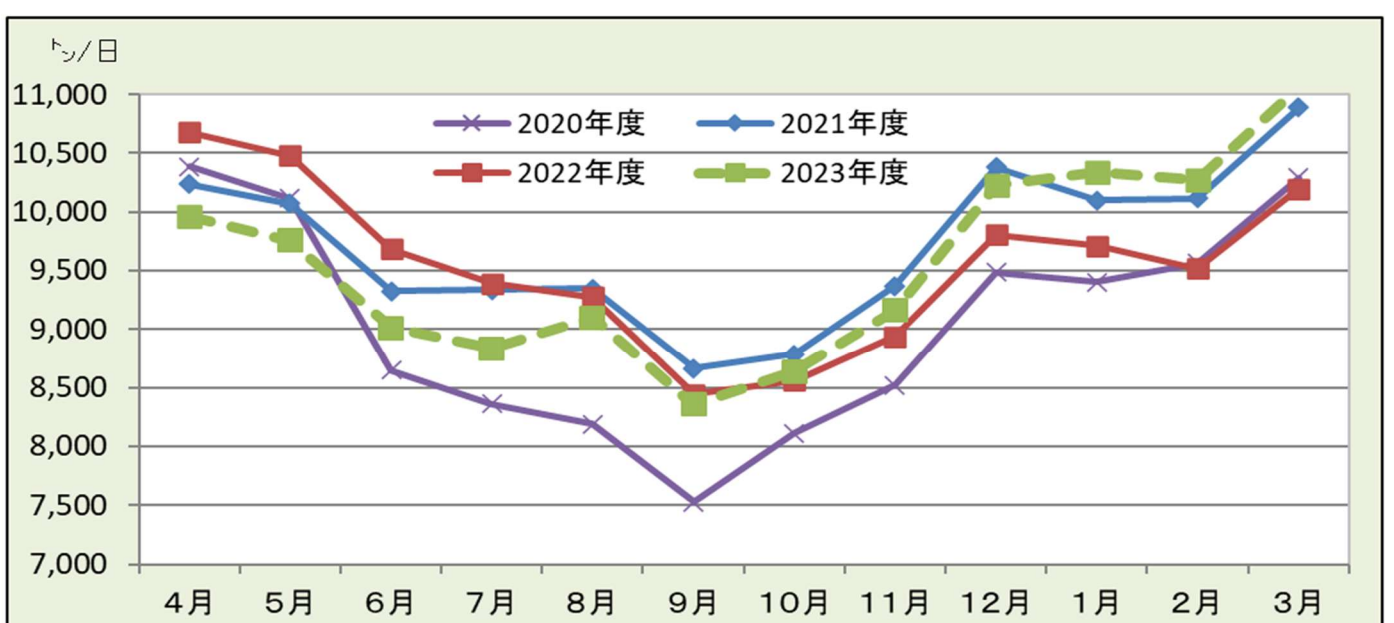
グラフ4-1：生乳供給量（日均量）



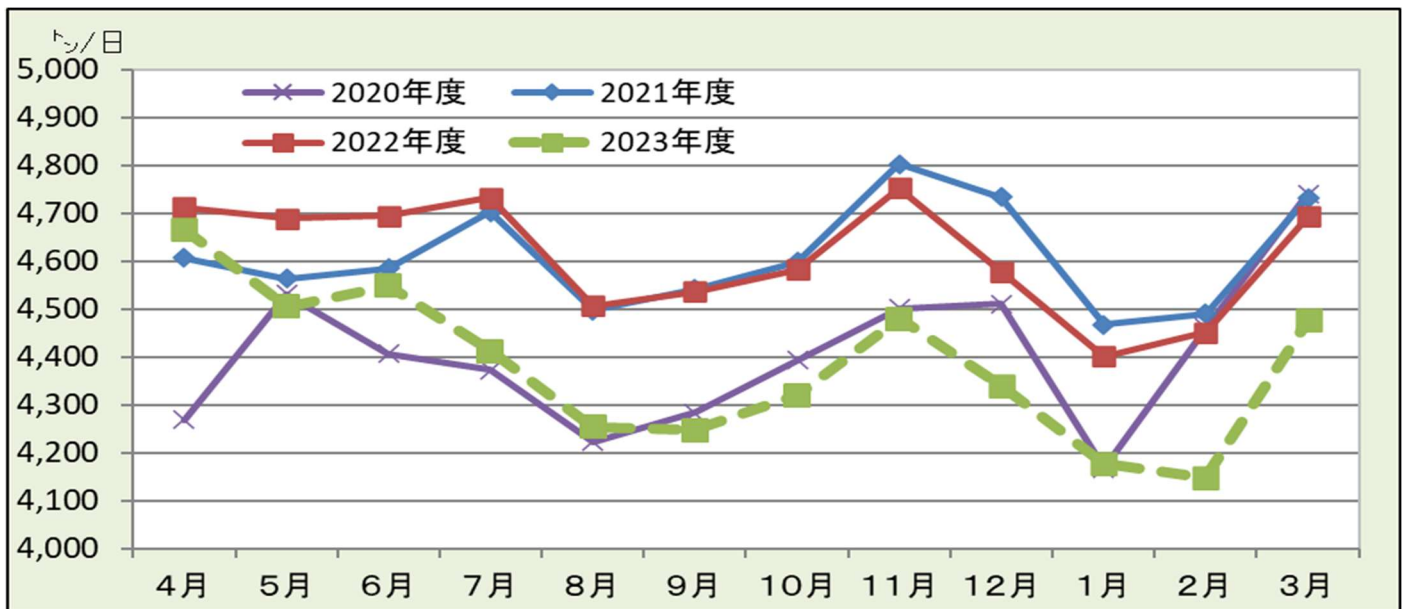
グラフ4-2：飲用等向生乳処理量（日均量）



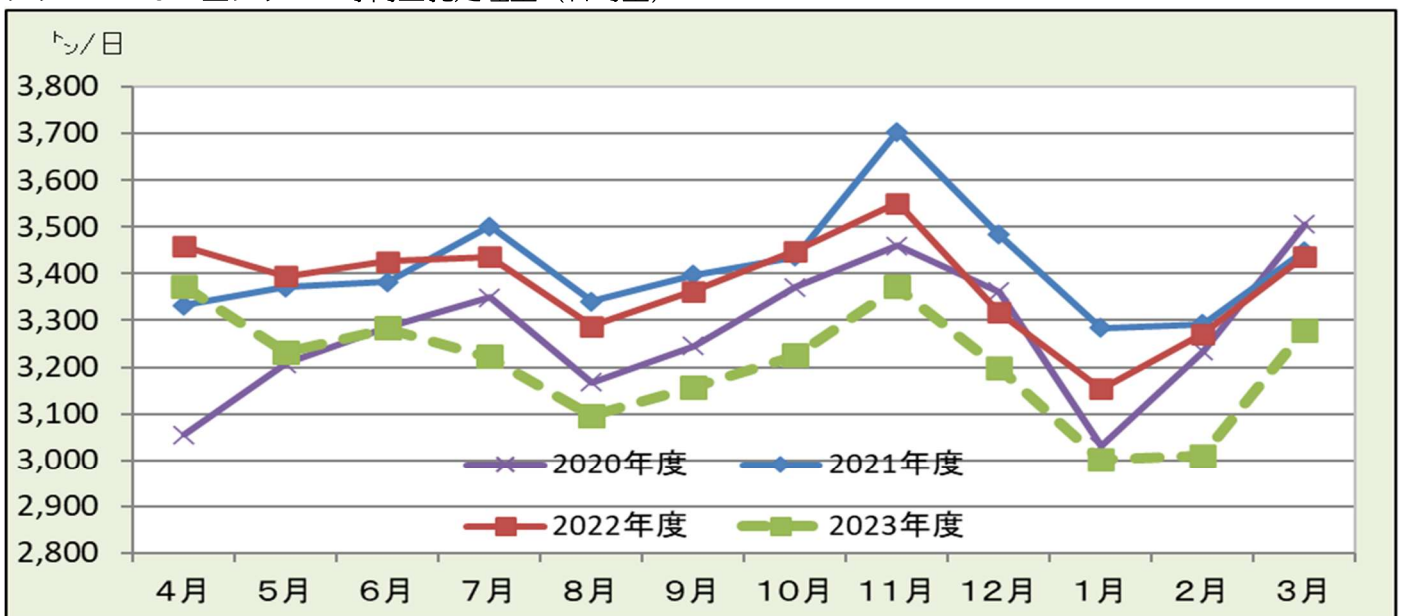
グラフ4-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



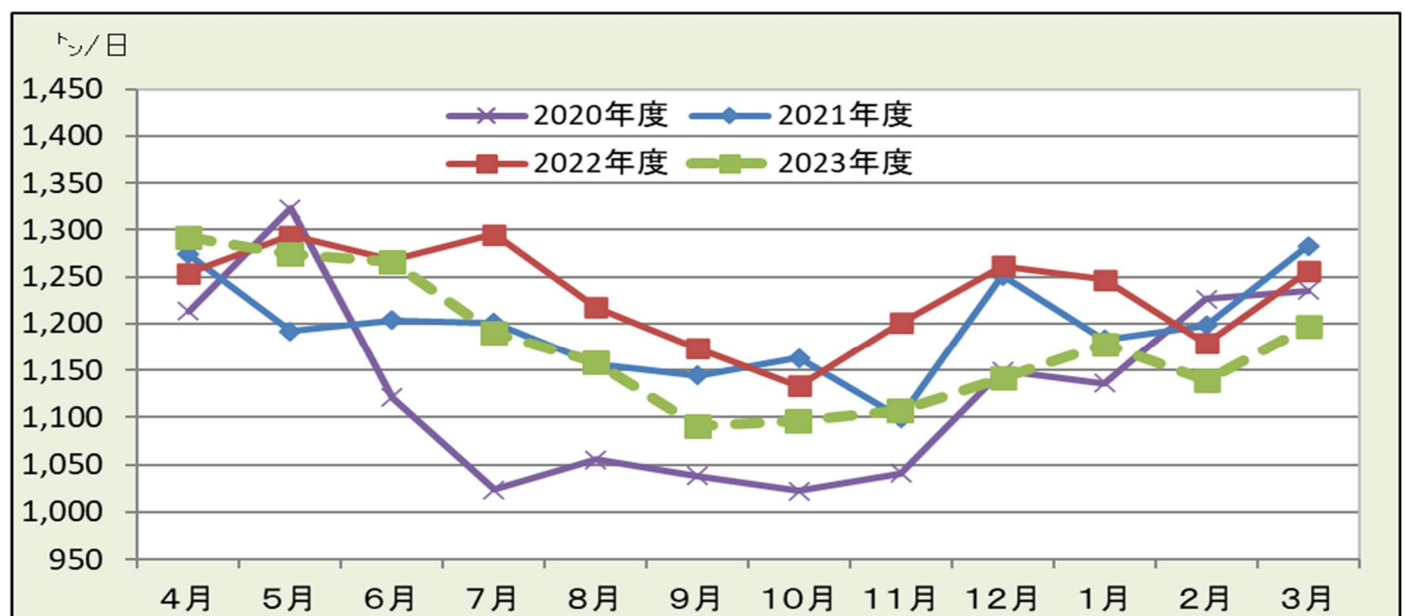
グラフ4-4：生クリーム等向・チーズ向生乳処理量（日均量）



グラフ4-5：生クリーム等向生乳処理量（日均量）



グラフ4-6：チーズ向生乳処理量（日均量）



5. 乳製品需給の動向

表5-1: 2022年度の脱脂粉乳の需給(網掛け:実績)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	過不足 B+C-D	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	月数	前年比	D	前年比
第1四半期	97.7	120.4%	43.1	107.1%	0.1	6.4	104.1	6.6	115.2%	36.8	116.5%
第2四半期	104.1	115.2%	34.1	97.1%	0.0	-11.2	92.8	5.9	103.3%	45.4	127.4%
第3四半期	92.8	103.3%	36.5	91.4%	0.0	-10.4	82.4	5.3	87.1%	47.0	133.1%
第4四半期	82.4	87.1%	40.7	91.6%	0.0	-18.0	64.4	4.1	65.9%	58.7	142.0%
上期	97.7	120.4%	77.2	102.4%	0.1	-4.9	92.8	5.9	103.3%	82.2	122.3%
下期	92.8	103.3%	77.2	91.5%	0.1	-28.4	64.4	4.1	65.9%	105.7	137.9%
年度計	97.7	120.4%	154.4	96.7%	0.2	-33.3	64.4	4.1	65.9%	187.9	130.6%

118.5 7.6 121.3% 133.8 106.4%

※各対策を考慮しない場合(ホクレンの対策のうち2022出回り分(R3、R4対策)+ALIC・生乳(Jミルク))

※各対策分を考慮しない場合の出回り量(対策無し通常需要)

表5-2: 2023年度の脱脂粉乳の需給(見通し)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	過不足 B+C-D	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	月数	前年比	D	前年比
第1四半期	64.4	65.9%	38.6	89.7%	0.0	11.1	75.5	7.5	72.6%	27.5	74.8%
第2四半期	75.5	72.6%	34.2	100.3%	0.3	2.3	77.9	7.8	83.9%	32.2	71.1%
第3四半期	77.9	83.9%	40.6	111.2%	0.0	9.4	87.2	8.7	105.8%	31.3	66.6%
第4四半期	87.2	105.8%	48.8	119.9%	0.8	20.5	107.7	10.8	167.3%	29.0	49.5%
上期	64.4	65.9%	72.9	94.4%	0.4	13.5	77.9	7.8	83.9%	59.8	72.7%
下期	77.9	83.9%	89.4	115.8%	0.8	29.9	107.7	10.8	167.3%	60.3	57.1%
年度計	64.4	65.9%	162.2	105.1%	1.2	43.3	107.7	10.8	167.3%	120.1	63.9%

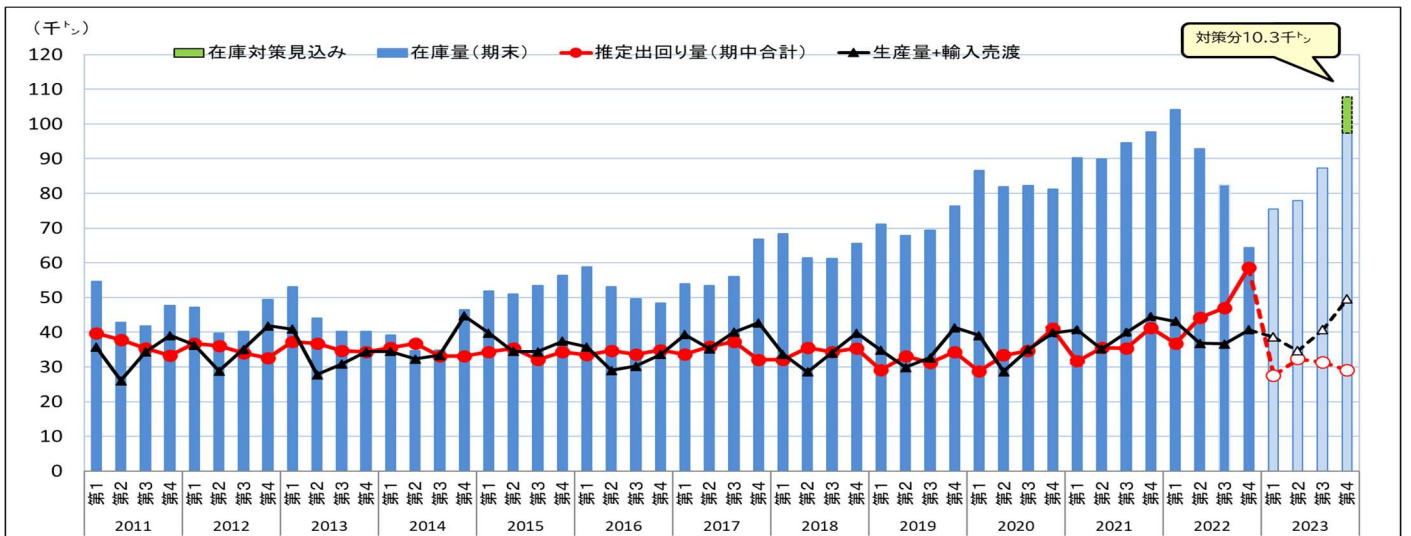
97.4 9.7 151.3% 130.4 69.4%

※Jミルク対策のうち2023年度配分済分を考慮(2022年度繰り越し分)

※前年対策除く出回り量との比: 89.8%

※各対策分を考慮した出回り量

グラフ5: 脱脂粉乳の生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量(四半期毎)



【2023年度の脱脂粉乳需給の見通し】生産量は162.2千ト・前年比105.1%、推定出回り量(※1)は120.1千ト(対策除く)・同63.9%(2022年度の通常出回り量(対策除く需要)との比較では89.8%)となる見通し。輸入売渡しは1.2千トと仮定(※2)し、年度末在庫量は107.7千ト・同167.3%、単年度ギャップは43.3千トと見込む。2022年度の業界協調の在庫削減対策のうち2023年度の出回りとなる数量10.3千トを見込みに反映すると97.4千ト・同151.3%と見込む。なお、2023年度事業分は考慮していない。

※1: 推定出回り量は、過去の生乳取引価格引き上げと需要減少の相関を基に予測(前提条件等はP1-2を参照)。

※2: 2023年度枠(0.75千ト)から輸入売渡を推定、2022年度枠の輸入売渡を考慮すると合計1.2千ト。TPP11、日EU・EPAによる民間貿易については考慮していない。

【前回見通し】: 生産量159.7千ト・前年比101.0%、推定出回り量123.1千ト(対策除く)・同79.5%となる見通し。輸入売渡しは0.9千トと仮定、年度末在庫量は120.0千ト・同118.7%。

表5'-1：2022年度のバターの需給（網掛け：実績）

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	過不足 B+C-D	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	月数	前年比	D	前年比
第1四半期	39.6	101.8%	21.0	105.5%	2.0	2.2	41.8	5.4	98.9%	20.7	107.8%
第2四半期	41.8	98.9%	16.5	100.0%	2.2	-2.7	39.0	5.0	93.6%	21.5	116.5%
第3四半期	39.0	93.6%	15.8	93.3%	2.4	-8.2	30.8	4.0	83.1%	26.4	110.7%
第4四半期	30.8	83.1%	19.9	91.3%	2.4	-2.0	28.8	3.7	72.9%	24.3	113.8%
上期	39.6	101.8%	37.5	103.0%	4.2	-0.6	39.0	5.0	93.6%	42.2	112.0%
下期	39.0	93.6%	35.7	92.2%	4.8	-10.2	28.8	3.7	72.9%	50.7	112.2%
年度計	39.6	101.8%	73.2	97.4%	9.0	-10.7	28.8	3.7	72.9%	92.9	112.1%

33.5 4.3 84.6%

※ホクレンの対策を考慮しない場合

88.2 106.5%

※対策分を考慮しない場合の出
回り量(対策無し通常需要)

表5'-2：2023年度のバターの需給（見通し）

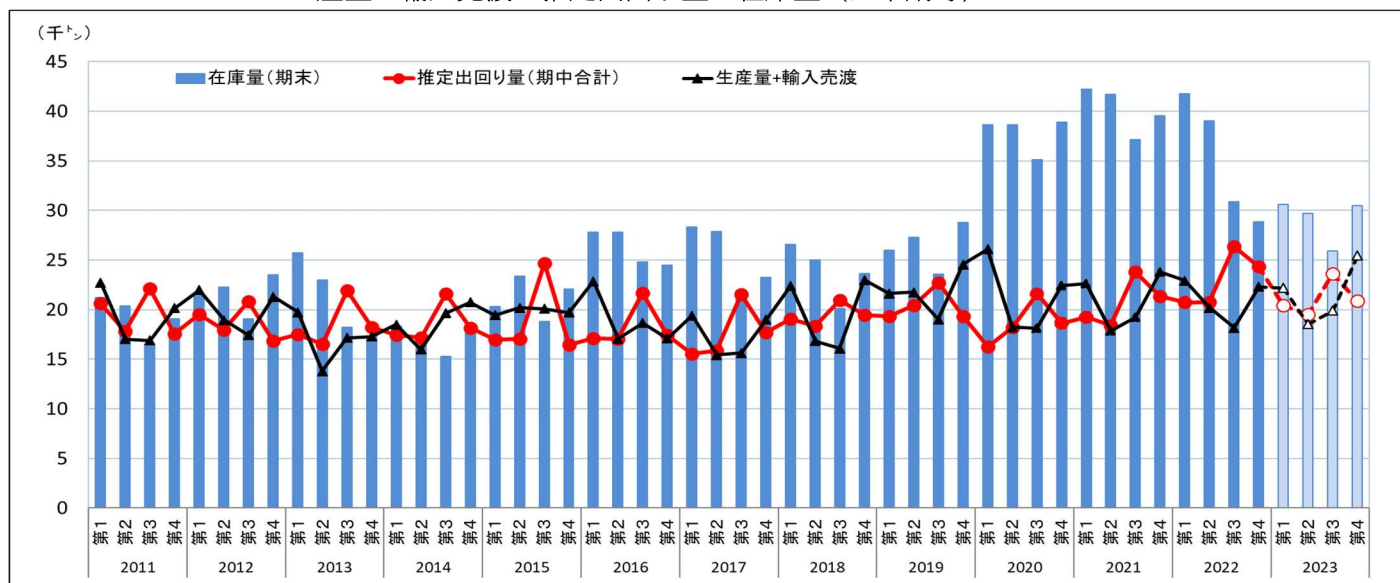
(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	過不足 B+C-D	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	月数	前年比	D	前年比
第1四半期	28.8	72.9%	18.8	89.7%	3.4	1.8	30.6	4.4	73.3%	20.4	98.4%
第2四半期	30.6	73.3%	16.6	100.3%	2.0	-1.0	29.7	4.2	76.0%	19.5	90.7%
第3四半期	29.7	76.0%	17.6	111.2%	2.3	-3.7	25.9	3.7	84.1%	23.6	89.6%
第4四半期	25.9	84.1%	23.8	119.9%	1.6	4.5	30.5	4.3	105.7%	20.9	85.8%
上期	28.8	72.9%	35.4	94.4%	5.3	0.8	29.7	4.2	76.0%	39.9	94.5%
下期	29.7	76.0%	41.4	116.0%	3.9	0.8	30.5	4.3	105.7%	44.5	87.8%
年度計	28.8	72.9%	76.8	104.9%	9.2	1.6	30.5	4.3	105.7%	84.4	90.8%

※前年対策除く出
回り量との比:

95.6%

グラフ5'：バターの生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量（四半期毎）



【2023年度のバター需給の見通し】生産量は76.8千トン・前年比104.9%、推定出回り量(※1)は84.4千トン・同90.8%(2022年度の通常出回り量(対策除く需要)との比較では95.6%)となる見通し。輸入売渡しは9.2千トンと仮定(※2)し、年度末在庫量は30.5千トン・同105.7%、単年度ギャップは1.6千トンと見込む。

※1:推定出回り量は、過去の生乳取引価格引き上げと需要減少の相関を基に予測(前提条件等はP1-2を参照)。

※2:2023年度枠(8.0千トン)から輸入売渡を推定。2022年度枠の輸入売渡を考慮すると合計9.2千トンTPP11、日EU・EPAによる民間貿易については考慮していない。

【前回見通し】:生産量75.5千トン・前年比101.0%、推定出回り量77.6千トン(対策除く)・同84.4%となる見通し。輸入売渡しは3.5千トンと仮定、年度末在庫量は31.1千トン・同98.2%。

6. 都府県の生乳需給の動向

表6-1: 2022年度の都府県の需給(網掛け:実績)

(千トン)

	生乳供給量		飲用等向処理量		生クリーム等向・チーズ向		A-B-C	移入量(道外移出量)D		脱脂粉乳・バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	291	100.4%	285	99.4%	6	104.8%	1	31	99.6%	32	108.4%
5月	297	99.8%	302	98.6%	5	101.9%	-10	37	102.1%	27	119.4%
6月	277	99.9%	300	97.0%	5	101.5%	-27	43	90.5%	15	139.1%
7月	272	100.5%	298	100.3%	5	103.5%	-31	48	104.6%	17	116.9%
8月	261	98.4%	285	100.0%	5	99.7%	-29	48	106.0%	19	92.4%
9月	256	98.6%	298	99.1%	5	100.9%	-47	55	97.4%	9	78.7%
10月	267	98.9%	302	99.3%	5	99.0%	-41	51	101.2%	10	98.6%
11月	259	97.6%	279	98.5%	6	97.6%	-26	38	98.6%	12	82.1%
12月	270	97.3%	269	98.1%	6	100.7%	-6	35	100.7%	30	93.1%
1月	273	97.1%	275	96.5%	5	94.3%	-7	33	97.2%	26	104.7%
2月	251	96.6%	258	96.5%	5	99.9%	-12	32	92.3%	20	90.2%
3月	284	96.1%	276	97.3%	6	101.2%	3	31	99.4%	34	89.3%
第1四半期	866	100.0%	887	98.3%	16	102.7%	-37	111	96.6%	74	117.8%
第2四半期	789	99.2%	881	99.8%	15	101.4%	-107	151	102.3%	44	97.0%
第3四半期	795	97.9%	850	98.6%	17	99.1%	-72	124	100.2%	52	91.3%
第4四半期	808	96.6%	809	96.8%	15	98.5%	-17	96	96.2%	79	94.0%
上期	1,654	99.6%	1,767	99.0%	31	102.1%	-144	262	99.8%	119	109.1%
下期	1,603	97.2%	1,659	97.7%	32	98.8%	-88	219	98.4%	131	92.9%
年度計	3,257	98.4%	3,427	98.4%	63	100.4%	-232	482	99.2%	250	100.0%

表6-2: 2023年度の都府県の需給(見通し)

(千トン)

	生乳供給量		飲用等向処理量		生クリーム等向・チーズ向		A-B-C	移入量(道外移出量)D		脱脂粉乳・バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	277	94.9%	277	97.2%	6	100.0%	-6	31	99.3%	25	77.8%
5月	286	96.1%	299	99.2%	5	100.0%	-19	37	98.2%	18	64.3%
6月	265	95.7%	297	99.2%	5	100.0%	-37	49	115.4%	13	82.0%
7月	258	95.0%	292	98.0%	5	100.0%	-39	53	110.6%	15	85.1%
8月	249	95.5%	271	94.8%	5	100.0%	-26	43	89.6%	17	89.3%
9月	245	96.0%	286	96.1%	5	100.0%	-45	53	96.6%	8	93.8%
10月	257	96.3%	289	95.7%	5	100.0%	-37	47	92.6%	10	95.5%
11月	251	96.9%	267	95.7%	6	100.0%	-22	34	91.0%	13	105.1%
12月	264	98.0%	257	95.6%	6	100.0%	1	34	95.3%	34	115.8%
1月	270	98.8%	262	95.2%	5	100.0%	2	32	95.2%	34	132.2%
2月	259	103.1%	256	99.1%	5	100.0%	-2	31	99.0%	29	149.8%
3月	284	99.7%	260	94.4%	6	100.0%	18	29	95.0%	47	139.0%
第1四半期	828	95.6%	874	98.5%	16	100.0%	-62	117	105.1%	55	73.7%
第2四半期	753	95.5%	848	96.3%	15	100.0%	-110	150	98.8%	39	88.5%
第3四半期	772	97.1%	813	95.7%	17	100.0%	-58	115	92.9%	57	109.3%
第4四半期	812	100.5%	779	96.2%	15	100.0%	18	92	96.4%	110	139.4%
上期	1,580	95.5%	1,722	97.4%	31	100.0%	-172	266	101.5%	94	79.2%
下期	1,584	98.8%	1,592	95.9%	32	100.0%	-40	207	94.4%	167	127.5%
年度計	3,164	97.1%	3,314	96.7%	63	100.0%	-213	473	98.3%	261	104.6%

【2023年度都府県の生乳需給の見通し】「生乳供給量」は3,164千トン・前年比97.1%、「飲用等向処理量」は3,314千トン・同96.7%、北海道から都府県への「移入必要量(道外移出量)」は、473千トン・同98.3%となる見通し。飲用需要減少が見込まれ、脱脂粉乳・バターの仕向量が増加する一方、飲用最需要期となる9月については53千トン・96.6%と前年を下回ると見通した。

【前回見通し】:生乳供給量3,217千トン・98.4%、飲用等向3,361千トン・98.3%、移入量(道外移出量)472千トン・98.7%。

7. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

○当面の不確定な需給要因と対応について

昨今の飼料価格や燃料費等の生産資材価格高騰を背景とした酪農生産者の深刻な経営状況を踏まえ、昨年 11 月から飲用等向・はっ酵乳等向の生乳取引価格を+10 円/kg、今年 4 月からは乳製品向に対して+10 円/kgの引き上げが合意・実施された。その後、この生乳取引価格改定および包装資材・エネルギー・物流費等の諸経費高騰に伴う製品への価格転嫁により飲用等向を中心とした需要は前年を下回って推移している。

その影響により学校給食用牛乳が休止となる年末年始、春休みおよびGWの長期休暇においては、処理不可能乳の発生が懸念されたが、全国的な生乳生産抑制の取り組み効果、生産者・乳業者の連携した需給調整、また業界自らの消費拡大運動や「牛乳でスマイルプロジェクト」を通じた業界内外を巻き込んだ施策により、これまで大きな混乱はなく推移した。

喫緊の課題となっていた脱脂粉乳の在庫量は、国の支援を得ながらJミルクが主体となって取り進めた全国協調の在庫削減対策や北海道（ホクレン）の独自対策を活用した乳業各社による積極的な置換等の取り組みのほか、酪農生産者による生乳生産抑制等の成果に加え、乳製品価格値上げ前の駆け込み需要が重なり、3月末には約 64 千トまで削減された。

このような環境のなか、短期的な需給予測にあっては、主として以下の不確定要素が挙げられ、これらを整理しつつ正確性の高い情報発信と課題への対応に努める必要がある。

●需給見通しにおける不確定要素

【生乳生産量】

- ✓生産コストの上昇による経営体数の減少(廃業の増加)
- ✓国際情勢の変化による為替や輸入飼料の価格変動
- ✓生乳生産抑制の進捗
- ✓今年度産の国産飼料の品質・量
- ✓天候・気温 など

【牛乳乳製品需要量】

- ✓消費動向の変化
(コロナ禍規制緩和による購買行動の変化、業務用・インバウンド需要の回復、家計負担の増嵩)
- ✓4月以降の乳製品向取引乳価の引き上げに伴う製品価格改定の需要への影響と
脱脂粉乳・バター需要の跛行性
- ✓8月以降の飲用等向取引乳価の引き上げに伴う製品価格改定の需要への影響
- ✓国際情勢の変化による為替、海外乳製品相場の変動
- ✓天候・気温 など

【乳製品在庫量】

- ✓上記の要因により、生乳生産量、牛乳乳製品需要量が変動することで乳製品在庫量に増減が発生

上記のように、2023年度の酪農乳業を取り巻く環境は例年以上に不透明であるなか、酪農乳業関係者はこれらの状況を踏まえ、生乳の生産基盤を維持しつつ、生乳需給の安定化を図るため、下記の事項を中心に弾力的に取り組む必要がある。

1. 需給環境の安定化に向けた酪農生産者の取り組みについて

8月からの飲用等向生乳取引価格引き上げに伴う製品への価格転嫁は消費を更に押し下げる可能性があり、生乳生産量と需要量のアンバランスから生じる需給ギャップは更に拡大することが懸念される。こうした中でも、牛乳乳製品の市場価値の毀損を防ぎ、生産者の厳しい経営状況を製品価格に反映させやすい環境を整備するためには需給環境を早期に安定させることが不可欠であるとともに、円滑な生乳処理を踏まえ、引き続き需要に応じた生乳生産に取り組む必要がある。

2. 乳製品需給に係る対応について

脱脂粉乳の3月末在庫は対策等の効果により約64千トまで圧縮されたものの、2023年度もはっ酵乳を中心とした需要の低迷が継続すると見込まれ、単年度ギャップは約43千トと想定される。在庫削減対策を講じない場合、再び在庫量は10万トを超えて過剰な水準となる可能性が高い。一方、バターは業務用を中心に需要が回復してきており、直近ではインバウンドのコロナ禍以前への回復傾向もあり、さらに消費が増加する可能性がある。

このように、脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが生じているなかで、過剰が見込まれる脱脂粉乳在庫については、新商品の投下等、需要拡大に努めるとともに、短期的には2023年度も国からの支援措置を積極的に活用しながら全国協調の在庫削減対策等を最大限かつ着実に取り組む必要がある。バターについては、消費動向を注視しつつ、国家貿易も含めて需要に対応した安定供給に努め、両品目の需給バランスを整えることが肝要である。

3. 牛乳乳製品の需要の維持・拡大への対応について

適正な生乳取引価格や製品価格形成、生乳生産抑制からの脱却、乳製品在庫の適正化等の種々の需給課題の解決に直結するのは、国産牛乳乳製品の需要維持・拡大並びに酪農乳業への消費者・小売流通の理解醸成等を通じた需給ギャップの解消である。牛乳乳製品の栄養・健康に係る社会的課題への貢献、酪農乳業が地域等で果たしている経済・社会的役割をはじめ、生産・流通段階の状況や取り組みなどに関する消費者理解を図るべく、価格改定となる中でも栄養的・健康的価値への評価と支持が揺るがないよう、将来を見据えた発信・説明が不可欠である。また、短期的な需給改善のみならず、将来的な牛乳乳製品の需要確保にもつなげるため、業界内外が一体となり継続的かつ底堅い需要開発が求められる。

なお、今夏は不確定要素が多いことから、地域によって飲用等向の需給が一時的にひっ迫する可能性も否定できない。学校給食用牛乳の優先供給と消費地である都府県を中心とした飲用需要に対して最大限対応するとともに、供給不足による市場の喪失が生じないよう需給状況を関係者で共有しつつ牛乳乳製品の安定供給に努めることが重要となる。